

Let's Know Hiroshima Castle.

しろや！ 広島城



No.60

広島城のいきもの ～空中編～

下手っぴいですが

冬場は様々な鳥が広島城跡に集まるので。朝早くから立派なカメラを手にした愛鳥家の方々が出沒します。自分もコンデジ（コンパクトデジタルカメラ）で試みるのですが、なかなかうまく撮れません。カバンからカメラを取り出して、電源を入れた時にはもういません。なんとか間に合っても、カメラを向けると、さっさと行ってしまいます。皆さんは大きな水筒のようなレンズがついているのに、何故じっくり素敵な写真を撮ることができるのだろうと、羨ましい限りです。私の体から「撮るよっ！撮るよっ！」オーラが出て、鳥たちに不快感を与えているのかもしれない。カラスやスズメは寄ってくるのにどうしてなのでしょう。

そんな中、かろうじて撮りためた平成最後の広島城冬の鳥の下手っぴい写真を紹介します。

水鳥たち

広島城は広い堀が水をたたえているので、水鳥がたくさんやってきます。季節を問わずいるのがサギの仲間です。アオサギ、ダイサギ、コサギなどが、堀ばたに置物のようにたたずむ姿をよく見かけます。静止状態からの長い足で歩く時、全くぶれない上半身の動きはまるでバレリーナ。あの体幹が自分にもあれば…、と羨ましく思います。



桜の池の鯉を狙うアオサギ

堀の中に浮かぶ水鳥も冬の風物詩となっています。カモの仲間やカイツブリに混じって、ひととき目立つのがキンクロハジロという鳥です。金色の目で黒い体で、羽根の一部が白いからこの名がついたそうです。

水に浮く姿はとても綺麗ですが、泳ぐ後ろ姿は、ガニ股で笑えます。私は、最初ガングロハジロだと思っていました。えらく渋谷系の名前だとは思いましたが、大きな勘違いでした。



本当に金色の目をしたキンクロハジロ♂

今季初めて存在に気づいたのが、オオバン。黒い体で、おでこからクチバシが白いのですぐわかります。おでこの部分は羽根がありません。ここだけの話、英語で「オオバンのようにはげている」という表現があるそうです。また、飛べるのかしら、と思うくらいデブです。ちなみに、バンという鳥はいますが、コバンという鳥はいません。



オオバン

毎年、一羽だけカモメが来ます。おそらくセグロカモメではないかと思います。いつも一羽だけで行動する孤高のカモメです。堀の鯉をくわえていたことがあり、その猟奇的な姿から「ジェyson」と呼ばれています。



ジェyson

ウもやってきます。カワウだと思うのですが、毎年、必ず一組だけの夫婦連れです。冬場だけ堀に滞在します。夜はどこかのコロニー（集団繁殖地）に帰っているかも知れません。カワウもウミウも群れで生活すると聞いているのですが、この夫婦には、きっと何か人には言えない事情があるのです。



北東の隅石がウのお気に入りの場所。必ずここ。

忘れてならないのが、カワセミです。体は小さいけれど、陽の光を受けて青く輝く様子はまるで宝石のようです。堀に飛び込み、小魚をとらえて木の上で丸呑みする瞬間見ちゃいました。会えると幸せな気持ちになるのは私だけかと思っていたら館長も同じでした。でも、やはりうまく撮影できない鳥です。



人からもらったカワセミの画像



ここにいる。
私が撮ったら所詮
こんなもん

カイツブリの謎

秋にたくさんやって来るカイツブリは、いつもグループで泳いでいます。小さくてモフモフしているので、ずっとヒナだと信じていました。いつの間に、どこで卵を産んで育てているのだろう。石垣は高いし、お母さん子育て大変、と心配していたのです。ヒナではなく、れっきとした成鳥だと知ったのは、だいぶ後のことです。思い返せば、親らしき鳥を見たことがありませんでした。いやいや、皆さんだって、あれを見たら絶対ヒナだと思えますって。

ちなみに、カイツブリは、水面に浮く巣を作り、産卵するのだそうです。



カイツブリ

水鳥以外

広島城跡内には樹木がたくさんあるので、水鳥以外の鳥もたくさんやって来ます。でも大半は、声はすれども…で、なかなか姿を確認することができません。まだ声だけで種類を判別できる知識は持ち合わせていない自分が残念です。

肌寒くなるころ、一段とやかましいのがヒヨドリです。一日中「ぴい〜、ぴい〜」甲高い声で叫んでいます。この声だけはわかります。クチバシは、長くて尖っているの、つつかれると思いのほか痛い。気を付けてください。



やけにフレンドリーなヒヨドリ

シロハラやアカハラ、ツグミは、いつも忙しそうに城内を歩いて何か探しています。



これはシロハラ



まだら模様のツグミ

セキレイ（写真なし）も長いシッポを上下に振り振り、長い足でタタタタタ…と歩いています。河原や水辺にいるイメージがありましたが、スーパーマーケットの駐車場でもよく見かけます。

シジュウカラやジョウビタキも、季節を問わず広島城ではよく見かけます。シジュウカラは澄んだ声で「ピーツツピーツツピーツツピー」と歌っているのをよく聞きますが、ジョウビタキがどんな声なのかは知りません。



シジュウカラ



ジョウビタキの後ろ姿

メジロも冬の広島城に姿を見せてくれます。鳥に詳しくない私でもすぐにわかりました。図鑑と同じなので感動しました。でも全然じっとしてくれないので、撮影は困難でした。奇跡的にとれたのがこれです。ああ、かわいいたら。



天守閣下のメジロ。奇跡の一枚。



メジロの高速首振り 普通はこんな感じ

これはイカルです。最初観た時は、野生化したブンチョウかと思いました。でも、ブンチョウよりはるかに大きいです。小さな群れでやって来て、クチバシを汚しながら木の実などを食べます。



ちょっと向かい風が寒いイカル



ぺっ

ムクノキの実を食べ散らかすイカル

何が楽しいのかしら、と思うほどにぎやかなのがムクドリです（※写真なし）。都会でも群れで生活しているのでおなじみの鳥ですが、広島城にもたくさんやってきます。鮮やかなオレンジ色のクチバシと足が特徴です。江戸時代は食用だったそうです。今はうるさいとか、フンが汚いという理由で害鳥にされていますが、もともとは開けた里山で暮らす鳥です。でも、だんだんそういう場所が少なくなり、やむを得ず街をすみかにするようになったのです。

カラスは、ゴミを荒らす悪い奴というレッテルを貼られています。カラスにとってはゴミではないのです。賢いがゆえに、嫌われものになっている鳥です。



どうせね

撮影することはできませんでしたが、キツツキの仲間のコゲラも見つけました。木の幹にドラミング（キツツキでおなじみの「コツコツ」する動き）していました。



コゲラ

個人的にいてほしいのが、フクロウの仲間。残業していても、声を聞いたことがないので、やっぱりいないのかな。

まだまだ珍しい鳥もたくさんいるのだと思います。自分はまだ出会ったことはありませんが、アオバトやノゴマなどのレアな鳥に、運が良ければ会えるそうです。

令和の冬には、フィールドワークで広島城の野鳥観察を計画しています。それまでに、鳥のことをもっと勉強しておこうと思います。

（岡野 孝子）

しろや
!
広島城

編集・発行

公益財団法人広島市文化財団
広島城

〒730-0011
広島市中区基町 21-1
電話：082-221-7512
FAX：082-221-7519

令和元年 6月 10日発行

広島城利用案内

開館時間：9：00～18：00

（12月～2月は9：00～17：00）

入館の受付は閉館の30分前まで

入館料：大人370円（280円）中学生以下無料

高校生相当・シニア（65歳以上）180円（100円）

（ ）内は30名以上の団体料金

休館日：12月29日～31日（臨時休館あり）

ホームページ <http://www.rijo-castle.jp>

「しろや！広島城」のバックナンバーは、広島城のホームページ（<http://www.rijo-castle.jp>）からダウンロードできます